

「食の安全・安心」についてのアンケート結果

★ 実施時期：平成24年7月

★ 対象者：県政モニター 359人

★ 回答数：297人（回収率：82.7%）

★ 担当課室：健康福祉部生活衛生課 食の安全推進室

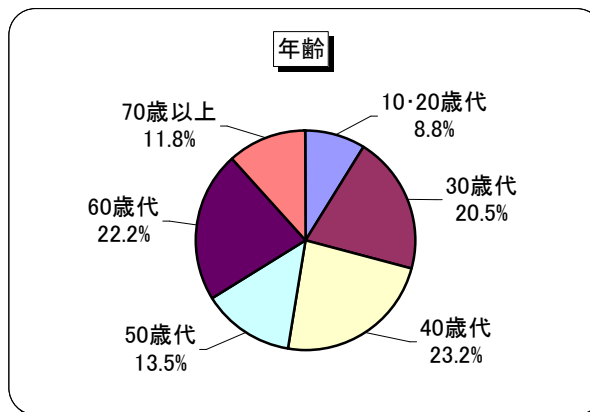
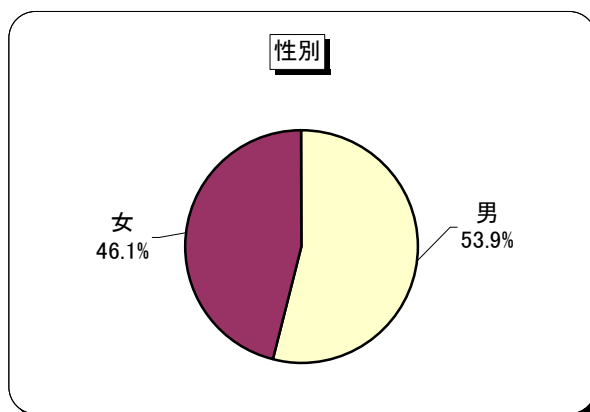
★ 調査目的：県では、県民のみなさんの「食の安全・安心」を確保するために、平成21年12月に「滋賀県食の安全・安心推進条例」を制定し、県および関係事業者の責務ならびに県民の役割を明らかにするとともに、県が行う施策の基本となる事項などを定めて、食の安全・安心の確保のための取組を進めています。

食の安全・安心の確保に関して、皆さんが日頃感じておられることとお聞きし、今後の施策に反映することを目的としてアンケートを実施しました。

◆ あなたの性別、年齢、お住まいの地域を教えてください。

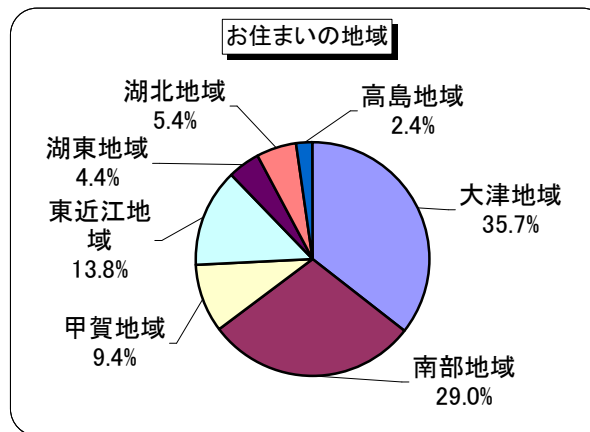
【性別、年齢】

	男	女	計	
10・20歳代	8	18	26	8.8%
30歳代	10	51	61	20.5%
40歳代	31	38	69	23.2%
50歳代	23	17	40	13.5%
60歳代	53	13	66	22.2%
70歳以上	35	0	35	11.8%
計	160	137	297	100.0%
	53.9%	46.1%	100.0%	



【お住まいの地域】

	男	女	計	
大津地域	62	44	106	35.7%
南部地域	48	38	86	29.0%
甲賀地域	11	17	28	9.4%
東近江地域	21	20	41	13.8%
湖東地域	6	7	13	4.4%
湖北地域	8	8	16	5.4%
高島地域	4	3	7	2.4%
計	160	137	297	100.0%
	53.9%	46.1%	100.0%	

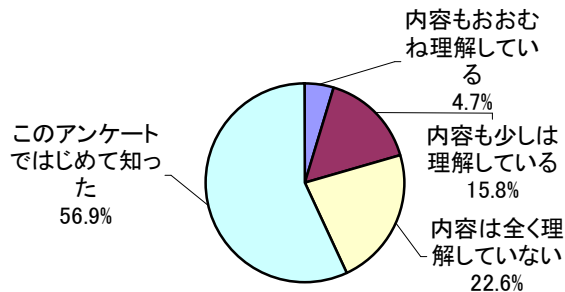


★ 「滋賀県食の安全・安心推進条例」について

問1 「滋賀県食の安全・安心推進条例」について、どの程度知っていますか。（回答は1つだけ）

	男	女	計	
内容もおおむね理解している	11	3	14	4.7%
内容も少しは理解している	33	14	47	15.8%
内容は全く理解していない	36	31	67	22.6%
このアンケートではじめて知った	80	89	169	56.9%

「食の安全・安心推進条例」について、どの程度知っていますか

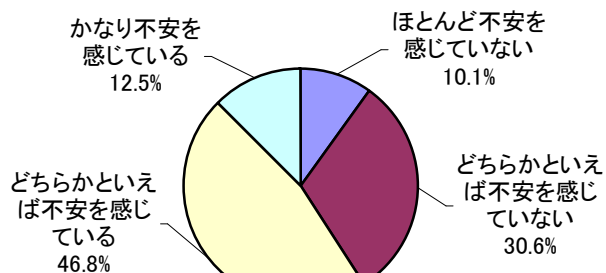


★ 食品の安全性について

問2 食品の安全性について、不安を感じていますか。（回答は1つだけ）

	男	女	計	
ほとんど不安を感じていない	24	6	30	10.1%
どちらかといえば不安を感じていない	56	35	91	30.6%
どちらかといえば不安を感じている	63	76	139	46.8%
かなり不安を感じている	17	20	37	12.5%

食品の安全性について、不安を感じていますか

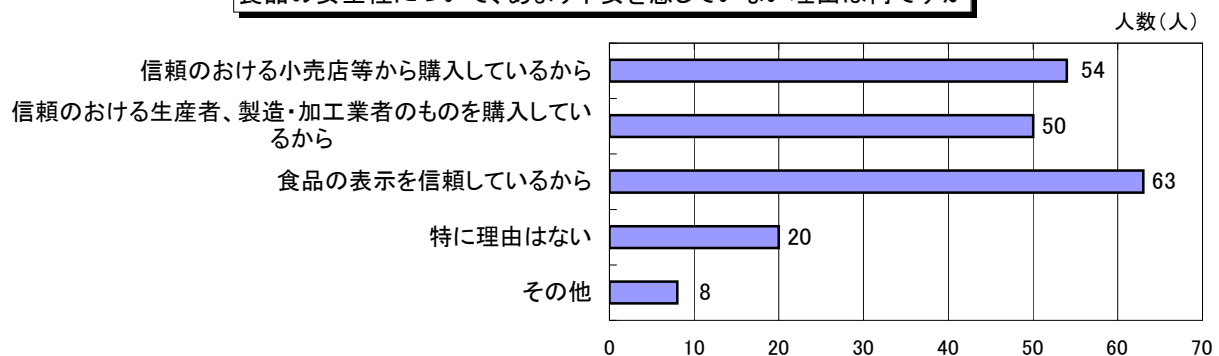


【問2で「ほとんど不安を感じていない」、「どちらかといえば不安を感じていない」を選択された方にお尋ねします】

問3 食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか。（回答はいくつでも可）

	男	女	計	
信頼のおける小売店等から購入しているから	43	11	54	44.6%
信頼のおける生産者、製造・加工業者のものを購入しているから	36	14	50	41.3%
食品の表示を信頼しているから	41	22	63	52.1%
特に理由はない	13	7	20	16.5%
その他	6	2	8	6.6%

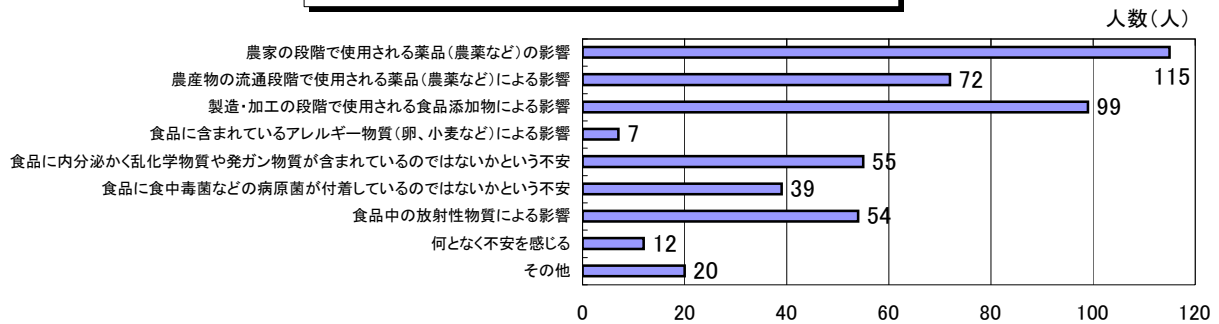
食品の安全性について、あまり不安を感じていない理由は何ですか



【問2で「どちらかといえば不安を感じている」、「かなり不安を感じている」を選択された方にお尋ねします】
問4 食品に対して感じている不安は、特にどのようなことですか。（回答は3つまで）

	男	女	計	
農家の段階で使用される薬品（農薬など）の影響	56	59	115	65.3%
農産物の流通段階で使用される薬品（農薬など）による影響	36	36	72	40.9%
製造・加工の段階で使用される食品添加物による影響	50	49	99	56.3%
食品に含まれているアレルギー物質（卵、小麦など）による影響	3	4	7	4.0%
食品に内分泌かく乱化学物質や発ガン物質が含まれているのではないかと不安	24	31	55	31.3%
食品に食中毒菌などの病原菌が付着しているのではないかと不安	18	21	39	22.2%
食品中の放射性物質による影響	15	39	54	30.7%
何となく不安を感じる	5	7	12	6.8%
その他	13	7	20	11.4%

食品に対して感じている不安は、特にどのようなことですか

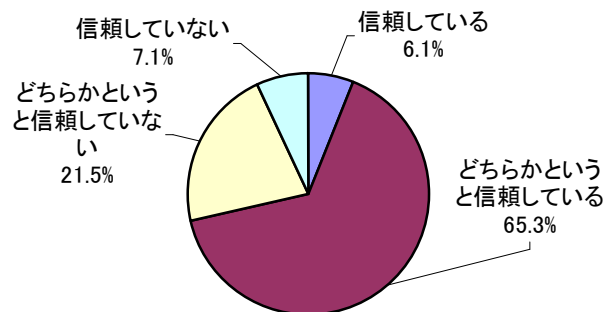


問5 食品にたずさわる関係者等に対する信頼感についてお尋ねします。（いずれも回答は1つだけ）

(1) 安全の確保のために国などが定めている、安全のための規制の基準について

	男	女	計	
信頼している	15	3	18	6.1%
どちらかという信頼している	107	87	194	65.3%
どちらかという信頼していない	26	38	64	21.5%
信頼していない	12	9	21	7.1%

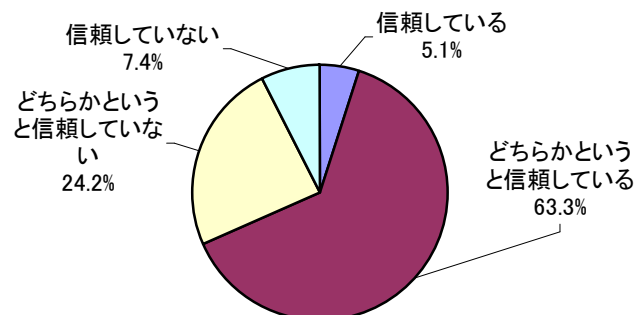
国が定めている安全のための規制の基準



(2) 食品の生産や製造・加工が適正に行われている（基準が守られている）かについて

	男	女	計	
信頼している	13	2	15	5.1%
どちらかという信頼している	107	81	188	63.3%
どちらかという信頼していない	31	41	72	24.2%
信頼していない	9	13	22	7.4%

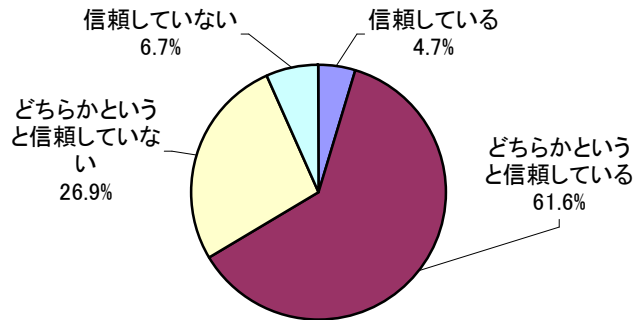
食品の生産や製造・加工が適正に行われているかどうか



(3) 流通や販売の段階で、適切に管理（保管等）がされているかについて

	男	女	計	
信頼している	12	2	14	4.7%
どちらかという信頼している	103	80	183	61.6%
どちらかという信頼していない	35	45	80	26.9%
信頼していない	10	10	20	6.7%

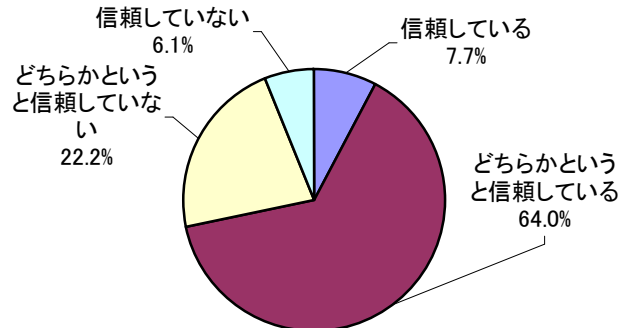
流通や販売の段階で、適正に管理されているかどうか



(4) 食品の表示について

	男	女	計	
信頼している	16	7	23	7.7%
どちらかという信頼している	101	89	190	64.0%
どちらかという信頼していない	32	34	66	22.2%
信頼していない	11	7	18	6.1%

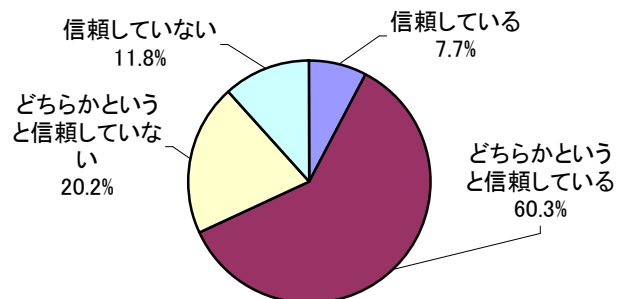
食品の表示について



(5) 国や県が行う食品の調査・検査や、事業者への指導（監視）について

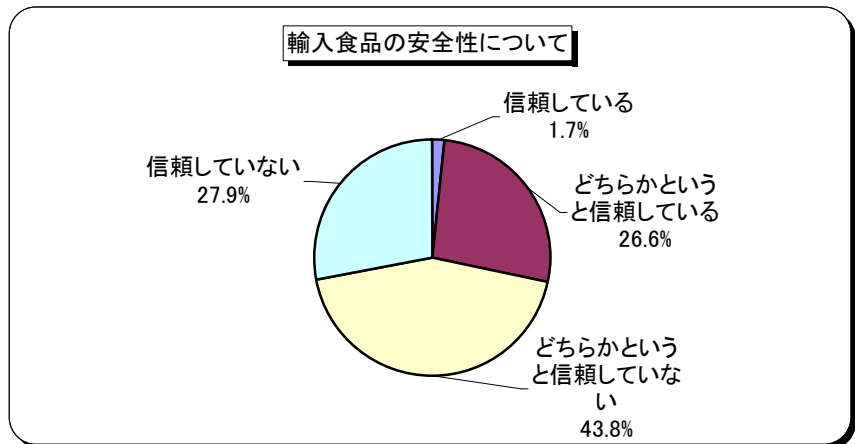
	男	女	計	
信頼している	16	7	23	7.7%
どちらかという信頼している	96	83	179	60.3%
どちらかという信頼していない	28	32	60	20.2%
信頼していない	20	15	35	11.8%

国や県が行う食品の調査・検査や事業者への指導について



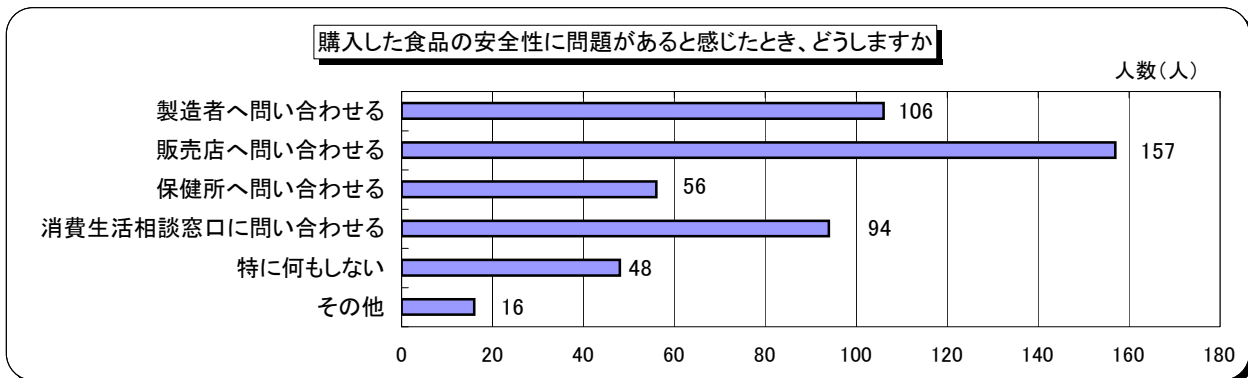
(6) 輸入食品の安全性について

	男	女	計	
信頼している	4	1	5	1.7%
どちらかという信頼している	53	26	79	26.6%
どちらかという信頼していない	57	73	130	43.8%
信頼していない	46	37	83	27.9%



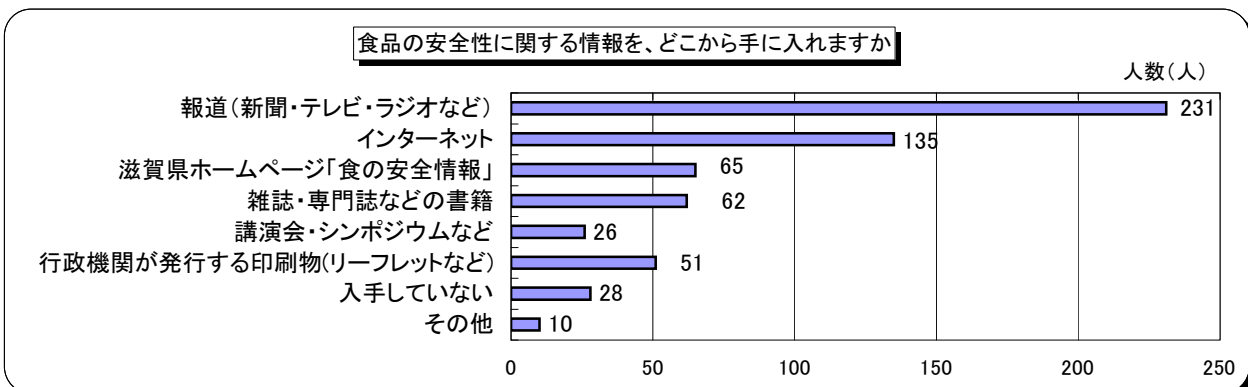
問6 購入した食品の安全性に問題があると感じたとき、どうしますか。(回答はいくつでも可)

	男	女	計	
製造者へ問い合わせる	62	44	106	35.7%
販売店へ問い合わせる	95	62	157	52.9%
保健所へ問い合わせる	34	22	56	18.9%
消費生活相談窓口にお問い合わせる	51	43	94	31.6%
特に何もしない	21	27	48	16.2%
その他	11	5	16	5.4%



問7 食品の安全性に関する情報を、どこから手に入れますか。(回答はいくつでも可)

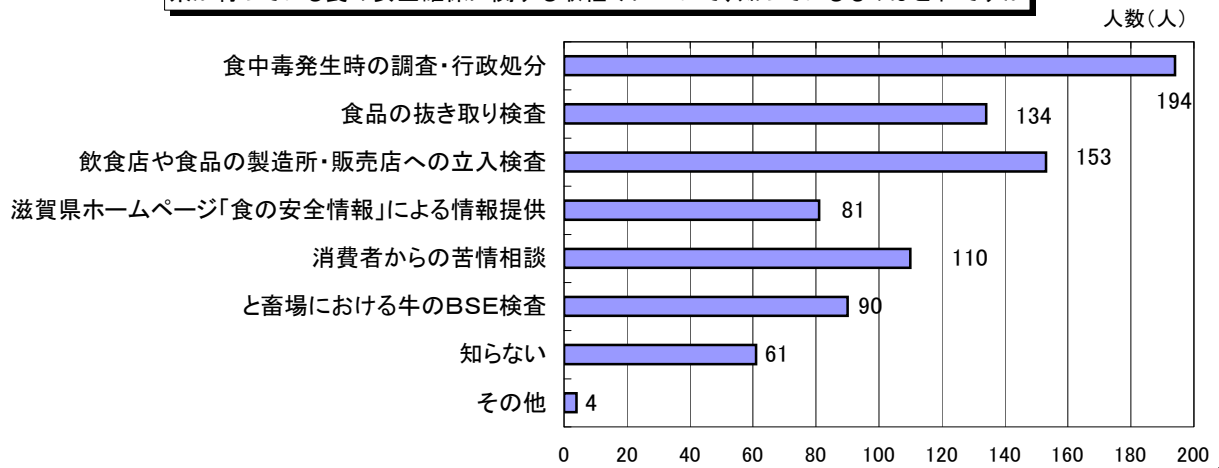
	男	女	計	
報道(新聞・テレビ・ラジオなど)	125	106	231	77.8%
インターネット	75	60	135	45.5%
滋賀県ホームページ「食の安全情報」	50	15	65	21.9%
雑誌・専門誌などの書籍	31	31	62	20.9%
講演会・シンポジウムなど	18	8	26	8.8%
行政機関が発行する印刷物(リーフレットなど)	31	20	51	17.2%
入手していない	15	13	28	9.4%
その他	8	2	10	3.4%



問8 県が行っている食の安全確保に関する取組みについて、知っているものはどれですか。(回答はいくつでも可)

	男	女	計	
食中毒発生時の調査・行政処分	112	82	194	65.3%
食品の抜き取り検査	82	52	134	45.1%
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査	92	61	153	51.5%
滋賀県ホームページ「食の安全情報」による情報提供	56	25	81	27.3%
消費者からの苦情相談	69	41	110	37.0%
と畜場における牛のBSE検査	55	35	90	30.3%
知らない	29	32	61	20.5%
その他	3	1	4	1.3%

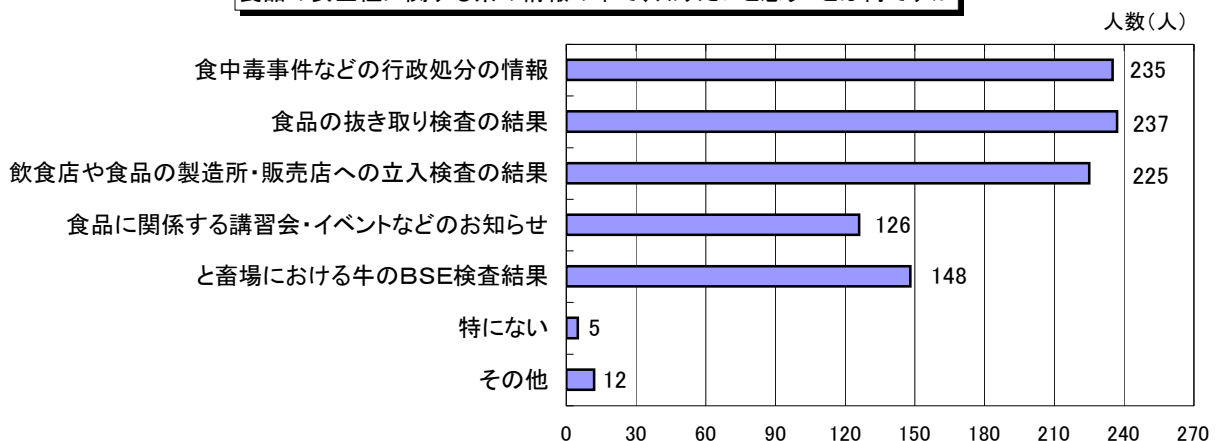
県が行っている食の安全確保に関する取組みについて、知っているものはどれですか



問9 食品の安全性に関する県の情報の中で、知りたいと思うことは何ですか。(回答はいくつでも可)

	男	女	計	
食中毒事件などの行政処分の情報	164	71	235	79.1%
食品の抜き取り検査の結果	133	104	237	79.8%
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査の結果	128	97	225	75.8%
食品に関する講習会・イベントなどのお知らせ	72	54	126	42.4%
と畜場における牛のBSE検査結果	85	63	148	49.8%
特にない	0	5	5	1.7%
その他	8	4	12	4.0%

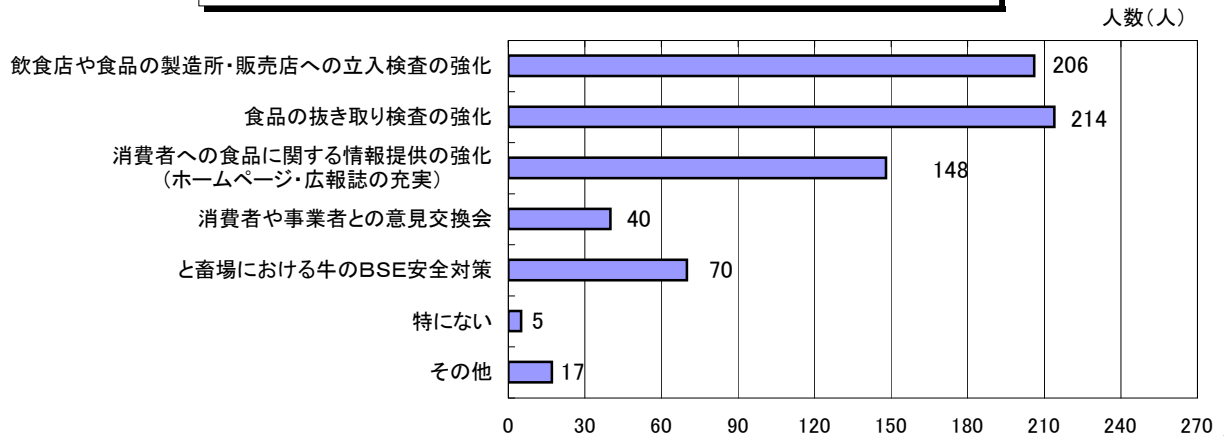
食品の安全性に関する県の情報の中で、知りたいと思うことは何ですか



問 10 県は今後、食品の安全性確保のために何に力を入れていくべきだと思いますか。（回答は3つまで）

	男	女	計	
飲食店や食品の製造所・販売店への立入検査の強化	116	90	206	69.4%
食品の抜き取り検査の強化	117	97	214	72.1%
消費者への食品に関する情報提供の強化 (ホームページ・広報誌の充実)	85	63	148	49.8%
消費者や事業者との意見交換会	20	20	40	13.5%
と畜場における牛のBSE安全対策	26	44	70	23.6%
特にない	4	1	5	1.7%
その他	11	6	17	5.7%

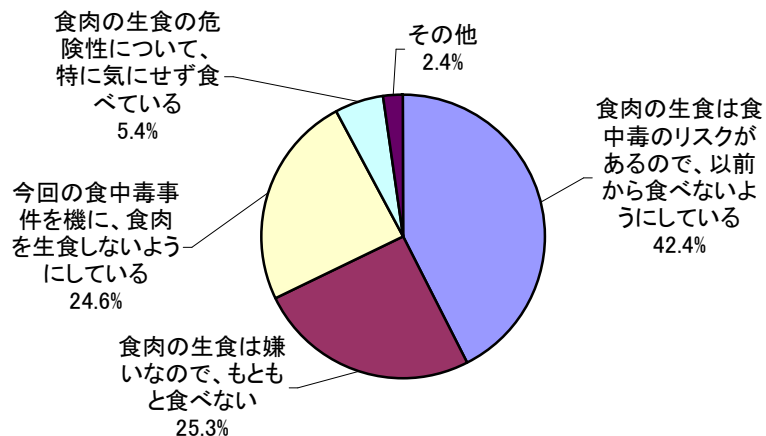
県は今後、食品の安全性確保のために何に力を入れていくべきだと思いますか



問 11 ユッケが原因と考えられる腸管出血性大腸菌による食中毒事件が過去に発生しましたが、食肉（鶏肉、牛肉など）の生食についてお答えください。（回答は1つだけ）

	男	女	計	
食肉の生食は食中毒のリスクがあるので、以前から食べないようにしている	71	55	126	42.4%
食肉の生食は嫌いなので、もともと食べない	38	37	75	25.3%
今回の食中毒事件を機に、食肉を生食しないようにしている	38	35	73	24.6%
食肉の生食の危険性について、特に気にせず食べている	9	7	16	5.4%
その他	4	3	7	2.4%

食肉(鶏肉、牛肉など)の生食についてお答えください



問12 食品の安全性について、日頃感じていることがありましたらお聞かせください。（400字以内）
【主な意見】

- ・自分や家族が口にする食品の流通経路において、必ずしも安全が確保されているわけではないと思う。また、現実的には世の中で食の安全性が保たれず、またそのことにより重大な身体への影響が発生していることも事実である。しかし、普段の生活で自分自身がそのような影響を直接的に受けた経験がないので、どのかに他人事のような、自分は大丈夫という楽観的に考えているのではないだろうか。
- ・消費者は安全性を信頼して食品を購入し、食している。家族の健康、栄養を考えて毎日の献立調理をしている。気になるもの、不信のあるものは排除するしか守る手段はない。消費者を守る行政であってほしいと思っている。
- ・自分がかもって知識を得て、良いもの駄目なものを見極める判断力を持たないとならないと思っています。
- ・食肉の生食は以前から食べていませんので、食べたいとは思いません。自分が食べないので、大人でも体調を崩す可能性があるのに、小さな子供に平気で食べさせる空気がなぜできるのかわかりません。もって、小さな子には危険であるということを知ることができるように指導をしていただきたいです。食べることを否定はしませんが、提供する側も食べる側も安心であるというものだけにしていきたいです。
- ・原発事故による放射能汚染がとりざたされ、あまりにも過敏に反応しすぎ消費控えによる生産者へのダメージも強く生計を脅かす事態が報じられています。生産者の生計維持、消費者への食品に対する安全性の確保等迅速な対応をお願いしたい。
- ・食品の安全性について、一般的に消費者は受け身の立ち場である。食品は贅品と違って生活必需品であり、安全性に多少疑問を感じても購入しないわけにはいかない。だから、行政が積極的に検査、管理、指導などを行ってほしいです。
- ・産地偽装などがいくら摘発されても減らないのは、検査やチェックが甘いからだだと思います。もって厳しく取り締まってほしい。
- ・食中毒などの被害にあったことが無いのか、それほど心配はしていない。ただし根拠があるわけではなく漠然とした理由からなので、今後は配慮が必要だと感じた。県には教育等(中学高校など)を通じて若者への消費者教育に取り組んでもらえればと思います。
- ・悪いことは隠蔽する体質と、悪いことがあると袋叩きにする国民性をまず対策する必要があるのではないか。食の安全については、一定の割合で問題が発生するものであり、それを発見して対処できるような体制が必要。
- ・食の安全性については、日本国民は概ね神経質だと思う。したがって、目先の利益のために不正を行う業者があっても、発覚すれば、消費者から相手にされなくなり、事業が立ち行かなくなる。したがって、悪質業者には一罰百戒で臨み、出荷までの工程で、手抜きや違法があれば市場から相手にされなくなることを認識させる必要がある。そのためには、県の不意の立ち入り検査などは有効だと思う。
- ・食品の安全性に限らず、行政は大企業や生産者を向いており、検査等はなあなあで形式的に過ぎず、食中毒問題等の隠しきれない事態が発生した時はじめて行政処分を行っているように感じている。もしそうでないのなら抜き打ち検査をどんどん行い、その結果を公表してほしい。なおホームページに掲載されているとしても、トップのページでなければ(食品関係者でもない限り)、わざわざ下の階層をたどってまで見ることはありません。
- ・日常無頓着で何でも口に入れていきます。神経質に賞味期限とか、製造年月日とかを気にする人がいますが私には滑稽に映ります。戦時下、戦後数年間とにかく食料不足で、食べられるものは何でも食べたので、これがよくてこれが駄目というものはありません。まさか毒をもっていないと思いますので、店頭で売られているものは大丈夫と思って食べています。よからぬ業者は行政で十分チェックして下されば事足りると信じています。よろしくをお願いします。
- ・食品に関するシンポジウムやイベントをどんどん開催してほしい。私のように、もってもって勉強したい、知識を吸収したいと思っている人も多いと思うので。
- ・製造側がいくら気をつけていても、何かが入り込んでしまうことは残念ながらある。消費者は、混入物を発見した際は製造元に連絡を入れるなりして、製造者に警鐘を鳴らす役割をする。そうすると、製造側はそれまで以上に心を配る必要が出てくる。その結果、より安全な品が世に出て行く。そう簡単にはいかないものかもしれないが、基本的には対話からはじまるものである気がする。
- ・私自身に食物アレルギーがあるので表示を丁寧にみる習慣がついている。表示の見方、理解力があれば法令に定められている基準で製造販売されており、安全であると信頼している。いたずらに極度の不安をあおる行為は慎むべきである。
- ・食品を作る側と、それを買う側の距離が、昔に比べると遠くなってしまっているケースが多いように感じます。食品が作られる現場を見たり触れたりする機会がもってあるといいのになと感じています。
- ・BSE含めマスコミが騒ぎすぎないように思う。病気(感染含む)等で少し変わったことがあると騒ぎすぎ。情報の出し方がへた。負荷をかけるやり方が多い。対応・対策は肅々と進める。